

## 香川県教育委員会 4月定例会会議録

1. 開催日時 令和5年4月21日(金)  
開 会 午前9時30分  
閉 会 午前10時12分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	淀 谷 圭 三 郎
委 員	小 坂 真 智 子
委 員	平 野 美 紀
委 員	木 下 敬 三
委 員	蓮 井 明 博

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長(兼)新県立体育館整備推進総室長	海 津 洋
教育次長(兼)政策調整監	白 井 道 代
教育次長	三 好 健 浩
総務課長	近 藤 高 弘
義務教育課長	荻 原 絢 嗣
高校教育課長	吉 田 智
保健体育課長	渡 邊 浩 司
生涯学習・文化財課長	佐 々 木 隆 司
政策主幹(兼)総務課副課長	宮 西 正 博
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	渡 邊 謙
高校教育課主任指導主事	水 野 伸 吾
高校教育課主任指導主事	高 鳥 光 郎
高校教育課主任指導主事	福 家 浩 一 郎
特別支援教育課主任指導主事	鳥 井 口 隆 司

傍聴人 2名

5. 会議録の承認

3月30日に開催した定例会の会議録署名委員の木下委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題については、非公開とすべき案件がない旨、発言。

## 7. その他事項

- その他事項1 令和5年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について  
高校教育課長から、令和5年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について説明。

### 【質疑・意見交換】

- <蓮井委員> 高校生の就職内定率が非常に高いことは喜ばしいが、県外志向が高まっているのが明らかである。参考までに、香川県内の大学生も全く同じ傾向である。この前、産学官の連携でやっている大学・地域共創プラットフォーム香川が、大学4年生にアンケート調査をした結果も全く同じで、県外へ行く理由として、希望する企業が少ない、給与や待遇面で折り合わない、公務員を志望している、という傾向が見られるとのことであった。よって、香川県内の高校生も大学生も置かれている状況は同じである。それだけに、高校生、中学生の段階から、地元の企業をよく知り、その良さを要点とした知識を身に付けるのが、益々大事になってくる。その点、教育委員会は地元の経済団体と協定などを結んでいるので、経済と教育の連携という面でもさらに成果が出てくることを期待したい。
- <小坂委員> 今春の卒業生の離職率を、コロナの影響を踏まえて気にかけていかなければならないとのことであるが、具体的な対応策はどのようなものか。
- <高校教育課長> なかなかこれといった対応策はないが、そのことを意識し、先ほど申し上げたジョブサポートティーチャーの巡回や就職先のOB、OGへは顔を出しているので、その時の声掛けを意識的にやっている。
- <平野委員> 県外へ行く公務員志向の人で、自衛官は分かるが、警察というのが分からない。私が見る限り、地元に残りたいから公務員になるという大学生が多いので、理由がピンとこず不思議な感じがする。香川県警は一生懸命人を集めようとしている。受験者が多すぎて、いっぱい落としているという状況ではないと思うが、それでも落ちたということなのか。
- <高校教育課長> 警察や自衛官、消防も、香川県内では、なかなか受からない。高校生の場合、香川県内を受けるが、高校を卒業して就職浪人も辛いので、他県も併せて受けた結果、香川県は落ちて、他県は受かり、他県に流れていくという状況である。
- <平野委員> どうしたらよいのか。
- <高校教育課長> 高校卒業者の採用枠を増やしてもらえればありがたい。
- <木下委員> 県外内定者が13.3%と言われればそんなものかと思うが、127名と言うと多く、非常に心配である。当然、県外志望動機についてはどれもごもつともであるが、せっかく県内で手塩にかけて育てた生徒達なので、県外に出る前に、

県内に留まるようなことを考えていかなければいけないと思う。

＜高校教育課長＞就職は個人の自由だが、県外に出る前に地元の経済団体と連携していきたい。一昨年度、経済同友会と連携協定を結んだことに続き、昨年度3月には中小企業同友会と協定を結んだ。企業説明会ではなく、探究的な学び、地域課題解決学習を一緒にやっていく過程で自然と生徒達が地元企業について知る機会を増やしていくのが、一番だと考えている。最近の生徒の思考傾向として、高校や大学の入試に対する感覚が昔とは変わってきており、就職に関しては、保護者の意向もある。生徒や保護者自身に早い時期から地元企業に関する知識を持ってもらうのが、遠回りのようであるが一番良いと思う。これについては、今後も経済団体とも連携して進めてまいりたいと思っている。

＜蓮井委員＞そのとおりだと思うが、加えて、企業側から高校生をインターンシップで受け入れることは、企業自体が活性化すると聞いている。これまでは生徒を受け入れることは大変だと思っていたが、実際に受け入れてみると、生徒の着眼点がすごい。今まで気づかなかった点まで質問してくる。その上、自社の社員が生徒に自社や地域の課題を説明する過程で、社員が見る間に成長するというのをよく聞く。これらを考え合わせると、高校生にとってもよいし、企業にとっても活性化につながり、益々良い職場になっていくということで、香川の地元の企業の魅力発信という意味では、時間はかかるかもしれないが、魅力が増していくので非常に大事である。

## ○その他事項2 令和5年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

高校教育課長から、令和5年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について説明。

### 【質疑・意見交換】

＜平野委員＞大学生と全く同じだと思いながら聞いていた。読み取る力がない、論理的に考えない、表現が的確にできていないという3点を感じているが、それが高校の時からだとする、これからの日本の教育の課題だと考えていかなければいけない。色々な要素があると思うが、長い文章を本当に読まなくなっている。SNSで短いやり取りしかしなくなっており、単語でしか読み取らないので、背景を想像しないし、論理的に考えない日常になってしまっている。そこを何とか教育の力で変えられないかと、日頃感じている。そのことが如実に表れた。

＜高校教育課長＞高校入試問題を私も全て解いているが、何十年も前の私の頃より、問題文が非常に長くなっている。大学入学共通テストもその傾向がある。思考・判断・表現を問う問題となってくると、問題文自体が長い。そこで躓いている生徒がいまいかとの心配すら持った。高校生の現状を見ると、確かに長い文章を読むこと

- は少なくなっているが、探究的な学習の影響か、プレゼンテーション能力はすごく上がってきていて、それは論理的にできているので、なぜ、それが読む力と結び付かないのかと思う。今後、それが結び付くようにしていくのが重要だと思う。
- <平野委員>もう一点気になるのが、国語の概評④に記載されている「条件を満たしていない」というのが、書くときに指示されたように書いていないということなのか。そうであれば独りよがりというか、自分で理解したつもりになって書いていることになり、その点も気になる。
- <高校教育課長>先程申したように、問題の意図や条件を正しく読み取れていないかもしれない。
- <平野委員>長い文章を読むのは大変だと思うが、これから生きていく上で大事である。
- <木下委員>母集団の数は十分だと思うが、その割に得点分布は滑らかになっていない。学力検査の得点分布は、左右対称な正規分布ではなく、山が右による傾向があるのか。
- <高校教育課長>正直、問題の設定だと思う。学力検査の場合は、ある程度正答率の高い問題も含まれているので平均点的には右によりがちである。しかし、それも解くことができない層も一定数いるので左側があまり滑らかに下がっていない。
- <木下委員>特に英語は正規分布ではない。
- <高校教育課長>二極化したM字型になっている。
- <木下委員>香川県は英語でこのような傾向を示すのか。
- <高校教育課長>例年以上にその傾向が見られる。
- <木下委員>理科は正規分布に近く、随分、教科によって違うと感じた。
- <高校教育課長>数学、理科の平均点だけを見ると、他教科より若干低い結果になっているのも気になる。